

令和2年9月 大槌町議会定例会

# 行政報告

令和2年9月3日

大 槌 町



本日、ここに令和2年9月大槌町議会定例会の開会にあたり、6月定例会以降における町政運営について、ご報告を申し上げます。

## 1 はじめに

去る7月29日、岩手県内では初めてとなる新型コロナウイルス感染症の感染者が確認され、9月1日までに22人の感染が確認されております。感染された方々の一刻も早いご快復をお祈り申し上げます。

現在、岩手県内においては、岩手県が行う「帰国者・接触者相談センター」によるPCR検査の他に、県内10か所において「地域外来検査センター」が運営されており、検査体制の強化が図られております。

また、医療体制においても、感染症病床数の拡張や、蔓延期に備え、民間宿泊施設の協力による軽症患者の収容対応等が進められており、万が一、感染した場合でも安心して治療が受けられるような体制が整いつつあります。

現在も、全国各地で感染が確認されておりますが、感染地域との往来について、国及び都道府県では、一律の制限を設けておりませんが、県境をまたぐ移動については、移動先の要請内容や感染状況を確認したうえで行動されるよう周知してまいります。

この新型コロナウイルス感染症は、誰もが感染する可能性があります。町民の皆様におかれましては、改めて「三つの密」を避け、手洗いやマスクの着用などの感染防止対策に引き続き努めていただくとともに、社会活動や地域経済

対策などの取り組みも進めてまいりますので、皆様のご協力をお願い申し上げます。

## 2 新型コロナウイルス感染症緊急対策の進捗状況について

次に、新型コロナウイルス感染症緊急対策の進捗状況について申し上げます。

国民一律に10万円が給付される「特別定額給付金」につきましては、去る8月31日をもって受付を終了したところであります。最終的な集計結果は、現在、精査・確認中ではありますが、速報値といたしましては、対象世帯数が5,320世帯、給付世帯数が5,304世帯、辞退が5世帯、未申請が11世帯であり、給付率は99.7%となっております。

従業者数に応じて事業規模を算定し、当面の事業資金を支援する「中小企業事業継続支援金」は、対象事業者が116件、給付済み事業者数が113件であり、給付額は3,785万円、給付率は97.4%となっております。

宿泊料金が50%引きとなり、使用期限が令和5年3月31日までとなっている「宿泊先行販売事業」の宿泊先行券1,300枚は、即日完売しており、給付額は545万円、8月1日時点の利用率は14.8%となっております。

飲食店とタクシーの利用が50%引きとなる「飲食クーポン券販売事業」は、5,000セットが完売しており、給付額は495万円、利用については7月31日をもって終了しております。

新型コロナウイルス感染症の影響により、売上が減少した小売業、飲食業、

宿泊業、サービス業の家賃と土地の一部を助成する「家賃補助事業」は、9月1日までに16件の申請のうち12件に支給しており、給付額は112万円になっております。

ウニ漁の出漁制限及び出荷制限により収入が減少した漁業者を支援する「水産業緊急支援事業」は、127件すべての対象漁業者への給付を終えており、給付額は1,270万円となっております。

また、町内事業者に新型コロナウイルス感染予防対策としてマスク、消毒薬を支給する「感染症予防支援事業」と、飲食店のテイクアウトを促進するためのチラシや容器等の購入費用を補助する「テイクアウト促進事業」は、現在も実施中であります。

### 3 大槌町行政評価の取り組みについて

次に、行政評価の取り組みについて申し上げます。

去る8月19日、大槌町総合開発計画評価委員会を開催し、第9次大槌町総合計画実施計画に掲げる各施策について、町が実施した昨年度の取り組みを10名の委員から「目標の達成状況」や「課題認識」、そして「総合評価と今後の方向性」の3つの視点から貴重なご意見をいただくとともに、8月28日には、同委員会の菊池良一委員長から評価報告書を提出いただいたところであります。

行政評価は震災後、再スタートした取り組みであり、限られた資源・人・物・金を有効活用し、企画立案のP l a n（プラン）、実施のD o（ドゥ）、評価

の C h e c k (チェック)、改善の A c t i o n (アクション) の P D C A サイクルで効率・効果的な行政運営を図り、町民の視点に立った行政サービスの向上を目指してまいります。

#### 4 各分野の取り組み方針

##### 【協働によるまちづくり】

(地域コミュニティの推進)

次に、地域コミュニティの推進について申し上げます。

去る8月6日、大槌町文化交流センター運営懇話会を開催したところであります。これは、同施設の運営について利用者や関係団体からのご意見を伺い、併せて今後の企画事業等への参画を促すことを目的に開催したものです。

運営懇話会では、本年4月の指定管理者導入以降の施設運営に対し、概ね好意的な評価をいただくとともに、若者の施設利用の促進や周辺環境の美化、加えて「ウィズコロナ」の状況下における文化活動のあり方など、多くのご意見やご提案をいただいたところであります。

今後も定期的にこのような機会を設け、指定管理者や利用者の皆様とともに、大槌の地域文化の創造と伝承、発信に向けた機能を一層発揮し、町内外の皆様にも長く愛される施設運営を心がけてまいります。

## 【産業・観光】

(魅力ある一次産業の振興)

次に、魅力ある一次産業の振興について申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、これから最盛期をむかえる一次産業への影響が懸念されます。生産者の状況によっては、応急的な支援が必要な場合も想定されることから、これまで以上に、花巻農業協同組合や釜石地方森林組合、新おおつち漁業協同組合との連携を強化し、引き続き市場の動向に注視してまいります。

また、町の新たな特産品として、「岩手大槌サーモン」と「大槌ジビエ」が誕生しました。これらの特産品が定着するよう、引き続き町内外の事業者へのサンプル提供や利用支援策を講じるとともに、原木しいたけやシロサケ、ピーマンなど、町の基幹産業に直結した特産品についても、さらなる振興が図られるよう関係機関と連携した取り組みを進めてまいります。

(大槌ならではの観光物産戦略の展開)

次に、大槌町ならではの観光物産戦略の展開について申し上げます。

大槌のきれいな水で育った「岩手大槌サーモン」の味を、まずは大槌町民の皆様にごっていただくため、去る7月18日、「岩手大槌サーモン大発表会」を開催し、約700人にご来場いただいております。会場では、サーモンのつかみ取りや特売会のほか、山海の幸バーベキューやジビエの特売に加え、復興あり

がとうホストタウン国であるサウジアラビア王国を紹介するコーナーや、磯焼け対策として取り組んでいる藻場再生の展示も行い、盛況のうちに終了したところであります。

この他、復興ありがとうホストタウンの取り組みとしては、去る7月13日、大槌高校において「大槌高校生とJICA森裕之氏によるサウジアラビア王国の文化を考える会」を開催し、橋本聖子東京オリンピック・パラリンピック担当大臣と生徒とのオンライン交流も行ったところであります。

今後も、新型コロナウイルス感染症予防対策を講じながら、関係機関との連携を図り、観光物産の振興と地域経済の活性化を推進してまいります。

## 【健康・福祉】

### （地域福祉の推進）

次に、地域福祉の推進について申し上げます。

去る7月2日、新たに、2名の方へ民生委員児童委員の委嘱状を交付いたしました。担当地区は、戸沢・中山地区と寺野・臼沢地区であります。このことに伴い、当町の民生委員児童委員及び主任児童委員の定数48名に対し、民生委員児童委員が37名、主任児童委員が3名となり、充足率は83.3%となっております。

未だ8名の欠員があることから、引き続き、自治会や関係機関との連携及び情報共有を図りながら候補者選定を継続し、民生委員児童委員の充足率を高め



るために努めてまいります。

(健康づくりの推進)

次に、健康づくりの推進について申し上げます。

「大槌町手作りマスクプロジェクト」につきましては、事業に賛同いただいた個人や団体の皆様にプロジェクトサポーターとしてご協力をいただいております。プロジェクトサポーターの皆様には、7月から開始した町内の児童・生徒によるマスク製作においても指導補助員としてご参加いただき、8月末までに製作したマスクは全体で2,300枚、そのうち児童・生徒による製作枚数は530枚となっております。今後も、学校をはじめとする関係機関やプロジェクトサポーターのご協力をいただきながら事業を継続してまいります。

また、生活習慣病を予防する取り組みとしては、各種相談や講座に加え、「岩手県糖尿病性腎症重症化予防プログラム」を昨年度から継続実施しており、糖尿病患者への受診勧奨や重症化リスクの高い方への個別保健指導を行いながら、健康的な生活習慣の確立をきめ細やかに支援し、健康寿命の延伸を目指した取り組みを推進してまいります。

(岩手県立釜石病院の新たな体制構築について)

次に、岩手県立釜石病院の新たな体制構築について申し上げます。

岩手県立釜石病院は、釜石医療圏域で唯一の急性期病院として高度・特殊医

療の提供、24 時間体制での救急医療の実施など多様な医療ニーズに対応しており、地域の重要な中核医療機関として、住民の健康と安心の象徴となっております。

しかしながら、昭和 52 年の移転新築からおよそ 42 年、平成 23 年の耐震改修から 9 年が経過し、各種施設の老朽化が進んでいることから、「岩手県立病院等の経営計画」に、建て替えに関する事項を明確化することや感染症病床の整備、医師の配置についての配慮や機能強化等について、去る 8 月 26 日、当町と釜石市、釜石医師会の連名で、岩手県医療局に要望書を提出したところであります。

#### (子育て環境の充実)

次に、子育て環境の充実について申し上げます。

来る 10 月 1 日より、保健福祉課内に「子育て世代包括支援センター」を設置します。

子育て世代包括支援センターでは、子育てに関する総合相談窓口として、妊娠・出産への不安や子育てに悩む母親と家族の相談や、利用できるサービスの情報提供等を積極的に行ってまいります。

#### (高齢者支援の推進)

次に、高齢者支援の推進について申し上げます。

高齢者の介護予防事業につきましては、新型コロナウイルス感染症予防のため、自宅で過ごす時間が増えたことによる身体活動量の減少、社会との繋がりの減少等が懸念されております。

運動不足の解消策としましては、「大槌運動プログラム」の広報誌への掲載や有線テレビの受信可能な地域では「大槌ぴんころ体操」を放映するなど、自宅で取り組める運動支援を実施しております。

また、緊急事態宣言解除後は、事業規模を縮小し、「新しい生活様式」に基づいた感染予防対策を講じたうえで介護予防教室等を再開しているところであります。

見守り支援につきましては、去る7月15日、第一生命株式会社と「大槌町高齢者等見守りネットワーク事業、おおつち愛・あいネット」の協定を締結しております。新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、本来の見守り活動が困難な状況である中、協力事業者が、様子の気になる高齢者の自宅を訪問した際には情報提供をお願いしており、大事に至る前に対応することができております。今後も協定を締結している56事業者との連携を強化し、高齢者の方々が安心して生活できる見守り支援を継続してまいります。

## 【教育・文化】

(教育の充実)

次に、教育の充実について申し上げます。

震災直後から、寺野地区で中高生の放課後学習支援を行っていた「コラボ・スクール大槌臨学舎」は、本年6月から場所を大槌高校内の教室に移設しております。今後も事業主体であるNPO法人カタリバと連携し、主体性のある豊かな学びを支え、町を支える人材の育成に取り組んでまいります。

また、去る7月25日・26日の両日、大槌高校の入学者を全国から募集するために参画した、「地域みらい留学フェスタ2020」の第1回合同説明会が、オンラインで開催されました。大槌高校魅力化推進員が中心となり、東京大学大気海洋研究所国際沿岸海洋研究センターとともに活動する「はま研究会」と、震災後の復興状況を記録し続けている「復興研究会」の活動を大きな魅力として発信しました。このオンライン説明会は10月まで月1回のペースで開催されることから、引き続き、大槌高校と町の魅力を発信してまいります。

(社会教育振興及びスポーツ・文化について)

次に、社会教育振興及びスポーツ・文化について申し上げます。

去る7月11日、町内の郷土芸能である臼沢鹿子踊、吉里吉里鹿子踊、吉里吉里大神楽の3団体を町の無形民俗文化財に指定いたしました。文化財の指定は14年ぶりであり、これにより町の無形民俗文化財は9件となります。

今後も、貴重な文化財の保護と活用に努めながら、ふるさと大槌の歴史や文化を後世に伝える取り組みを進めてまいります。

## 【安全・快適】

(災害に強いまちづくりの推進)

次に、災害に強いまちづくりの推進について申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、避難所運営においても消毒薬やマスク等の準備、受付時の検温に加え、動線の確保やファミリールームの設置など、避難所内での「三密」を防ぐための対策を講じることとしております。

また、新たに職員向け「避難所運営マニュアル」を作成し、去る7月16日に担当職員への実地研修を行ったところであります。研修では、受付時の感染予防対策や避難者の体調に応じたエリア分けの確認、検温に使用するサーマルカメラの操作やファミリールームの組立て方法等を確認し、実践に向けた準備と対策を進めております。

昨年の台風19号や本年7月の西日本を中心とした豪雨災害など、全国的に水害の激甚化が危惧されていることから、引き続き災害への対策を講じるとともに、防災意識の高揚を図る取り組みを進めてまいります。

(安全・安心なまちづくりの推進)

次に、安全・安心なまちづくりの推進について申し上げます。

去る6月18日、一般廃棄物の適正処理及び減量化を推進することを目的に、大槌町廃棄物対策協議会を開催しました。

今後も循環型社会の形成に向けたごみの減量化や再資源化の取り組みを推

進し、7月1日から全国一律で開始されたレジ袋の有料化など、情勢の変化を見据えつつ、本協議会においても、委員の皆様からのご意見をいただきながら、ごみの減量化や再資源化の推進についての施策を検討してまいります。

(被災者の住宅再建支援策について)

次に、被災者の住宅再建支援策について申し上げます。

東日本大震災津波被災者の恒久的な住宅への移行に伴い、これまで町が実施してきた住宅再建支援補助制度は来年3月をもって終了することとしております。

引き続き支援対象者が制度から漏れることのないよう、町として広報誌への掲載や個別連絡を通じて周知を図ってまいります。

以上、行政報告を申し述べましたが、本定例会では、人事案件や条例の制定、補正予算案等をご提案申し上げます。

何卒よろしくご審議の上、議員各位並びに町民の皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます、行政報告といたします。